

ティー

ネット

# T・NET通信

2002 WINTER

No. 20

発行

財団法人 日本ユニセフ協会 学校事業部

〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス TEL:03-5789-2014 FAX:03-5789-2034  
ホームページ <http://www.unicef.or.jp> 募金口座 郵便振替・00190-5-31000・(財)日本ユニセフ協会

## アフガニスタン支援活動

昨年9月11日にアメリカで起きたテロ事件以降、国際社会の関心はアフガニスタンに向けられ、緊急支援活動が活発化しました。しかし、9月11日以前も、アフガニスタンの人びとは長い間非常に厳しい状況に置かれていました。20年以上におよぶ紛争のため国土は荒廃し、経済基盤は壊滅状態にあります。また3年間におよぶ過去30年の内で一番ひどい干ばつのため、農村部の人びとは「国内避難民」としてアフガニスタン国内の都市部へ流入したり、「難民」として国境を越えて隣国のイランやパキスタンへ脱出したりしました。今回は、アフガニスタンにおける緊急支援活動の様子とアフガニスタンの復興の基礎となる教育の状況についてお伝えします。



マカキ・キャンプの国内避難民  
©UNICEF



地図は参考のために掲載したもので、  
国境の法的地位について何らかの立場  
を示すものではありません。

### アフガニスタン基礎データ

面積	652,225平方キロメートル(日本の約1.7倍)
人口	21,923,000人
首都	カブール
人種	パシュトゥーン人、タジク人、ハザラ人、ウズベク人など
宗教	イスラム教

成人の識字率	男46%、女16%
(1995-1999年の期間内に入手できた最近のもの)	
1歳未満児死亡率	(出生1000人当たりの人数): 165
5歳未満児死亡率	(出生1000人当たりの人数): 257
改善された水源を利用する人の比率	13%

\* 特に表示の無い限り、上記のデータは1999年のものです。



### 厳しい冬を越すための緊急支援活動

2002年3月まで、ユニセフは子どもとその家族の生存を最優先課題として、緊急支援を行っています。マイナス25におよぶ厳しい冬を越せるように、衣料や毛布、テントや医薬品、栄養補助食などを供給しています。また、安全な水の供給、衛生環境の改善、保健サービスの提供も行っています。2001年9月中旬から周辺国に撤退していた国際スタッフも、11月中旬にはカブール、ジャララバード、カンダハル、マザリシャリフ、ヘラート、ファイザバード、とアフガニスタン国内の6つの事務所へ戻りました。イラン、トルクメニスタン、ウズベキスタン、タジキスタン、パキスタンの周辺各国の事務所も一緒に、アフガン難民および国内避難民向けの支援活動を行っています。また、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)、WHO(世界保健機関)、WFP(世界食糧計画)、UNDP(国連開発計画)、世界各国のNGOとも連携しながら

活動しています。

2001年11月半ばまでに、飛行機による支援物資の空輸は22回行われ、トラックとロバや馬による輸送隊は45回アフガニスタン国内に送り込まれました。国際スタッフがアフガニスタン国内から

撤退していた約2ヶ月の間も、現地スタッフ(アフガニスタン人)の活躍により支援物資は子どもたちに届けられていました。70名ほどの現地スタッフは、タリバンによって事務所の電話、ファックス、e-mail、衛星電話など全ての通信機器の使用

### 4,000頭のロバによる支援物資の運搬

9月29日、パキスタンの町ベシャワールから、200トンのユニセフ緊急支援物資を積んだ25台の大きなトラックが出発しました。ハーマイオニー・ヤングズは、9月11日の事件以降初めてアフガニスタン北部に送り込まれる、ユニセフ支援物資輸送隊のリーダーです。「アフガニスタンの支援活動に何年も携わっているけれど、こんなに困難な状況のなかで支援物資を輸送するのは初めてよ。でも雪が降り積もるまでに届けなければね」と彼女は言います。100トンにおよぶ子どもたちの衣服や靴、家族のための毛布、石鹸、やかん、お皿、洗濯石鹸にバケツなどの緊急支援物資、6トンのUNIMIX(ミルクがゆのような高たんぱくの食べ物) 70,000人に供給できる90トンの教育資材、4トンの子ども用の薬やテントが今回は運搬されます。まず、450kmの道

を1日でトラックで走り、その後荷物をジープに移して標高4,000mにある峠を越えました。その先の道はさらに細い為、最終的には4,000頭のロバが2日間かけて40kmの道を進んだのです。荷物はさらに小さなトラックに移しかえられ、ファイザバードに到着しました。



ロバに支援物資をのせ、山道を進むポーターたち  
©UNICEF/Safoat Muri



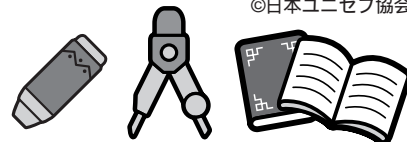
地雷について学ぶ少女たち  
©UNICEF/HQ96-0205/HARTLEY

## 「箱の中の学校」(School-in-a-Box)

1990年代半ばにユニセフとユネスコの教育の専門家によって、難民キャンプの子どもたちが基礎教育を受けられるよう開発された教育資材キットです。バッグやクレヨン、練習帳や鉛筆など80人の生徒向けの資材と、ボールペンやチョーク、コンパスや定規などの先生のための資材が箱に入っています。教育資材が入っている箱は、キットに含まれている特殊なペンを塗ると、黒板として使用できます。どんな状況でも使用できるこの「箱の中の学校」は、子どもの権利条約で定められている第28条「教育を受ける権利」を守るべく、いままでに30以上の国に提供されました。



©日本ユニセフ協会



を禁止された中で、子どもたちのために懸命に活動を続けていました。

去年の冬、アフガニスタンでは100人の子どもが寒さのために亡くなり、さらに多くの子どもが飢えのために命を落としました。適切な人道支援を早急に行わないと、もっと多くの子どもが今年の冬は生命の危機にさらされることになるのです。今、750万人のアフガニスタン人が国際的な支援に依存しており、その3分の2は女性と子ども、そして150万人は5歳未満の幼い子どもです。9月11日のテロ事件以前から、アフガニスタンに生まれた4人に1人の子どもは5歳の誕生日を迎えることなく亡くなっています。ひとりでも多くの子どもの命を救うため、ユニセフは緊急支援活動を行っています。



### アフガニスタンの未来をつくる教育

アフガニスタン再建のための復興支援のなかで、ユニセフはアフガニスタンの教育システムを整備することに重点をおいています。教育は国をつくる基礎であり、教育がなければその国の未来もないと考えるからです。しかし、男の子と女の子、国内と国外にいるアフガニスタン人の間には、いままで受けてきた教育レベルに大きな差があるため、教育システムの整備は非常に難しい仕事です。

タリバン政権下では、男の子のみタリバン教育

省による監督のもと教育を受けることができました。しかし、教員の大部分を占める女性が解雇されたため教員の数は不足し、残った男性教員には十分な給料が支払われなかったため、教育の質の低下が深刻な問題となっています。女の子は宗教省の監督のもと、9歳までモスクで宗教および道徳教育を受けることは認められていましたが、書くことを習うことは禁じられていました。それ以外の女の子は、学校に行くことさえ禁じられていたのです。

女子教育の禁止と教育の質の低下は、逆により良い教育を求める風潮を生み出しました。公教育の現場で教えることのできなくなった女性教員の多くは私塾を開き、月謝を払うことのできる家族は息子だけでなく娘も通わせました。タリバンのこのような私塾に対する政策は、地域や時期によって異なります。黙認する地域もあれば、女の子への教育はコーランに基づくカリキュラムに限ると規制した場合もあります。

パキスタンやイランなど国外の難民キャンプに住むアフガン難民の教育状況は、国内避難民より良いようです。パキスタンではアフガン難民は380の難民村に住むよう指定され、その中で基礎教育が行われています。1992年以前にイランへ入国したアフガン難民は、イラン政府によって登録されていたため、教育や保健、就職などイラン人と同様のサービスを受けました。1992年以降に入国した難民は登録されていないため、それぞれの

地域で自ら登録しない限り教育を受けることができなかったので、難民村内に非公式な学校が数多く作られたのです。1998年の時点では、96,000人の子どもたちが初等教育を受け、そのうち45%は女の子でした。

タリバン政権崩壊後教育への要望が高まり、特に都市部に住む両親は子ども達を学校に通わせることに熱心です。ユニセフのアフガニスタン代表のエリック・ラロシュ氏によると、「公立学校は3月から始まるのに、両親達は一刻でも早く子ども達を学校に通わせようと、寒い仮教室でもいりから授業を行って欲しい」と要望しています。この熱心さの背景には、教育の重要性和安全の必要性という二つの側面があります。子ども達が学校の敷地内にいる限り、路上でトラブるに巻き込まれる可能性は減り、野原や道路脇などで地雷の被害にあう危険性も減るのです。

ユニセフは公立学校の始まる3月まで、約35万人の子どもたちが通っている地域学校や私塾を支援したり、難民キャンプの子どもたちのために学校用のテントや文房具を支給したりしています。すでに192セットの教育資材キット「箱の中の学校」と159セットのレクリエーション・キットをアフガニスタン北部地域に供給しました。また、アフガニスタン中部地域では地元のNGOと協力して1万人の子どもたちに教育資材を届ける予定です。春には100万人の子どもたちと3万人の教師が学校に戻る予定なので、教師を訓練し、学校設備や学用品を整え、女の子の教育と教育の質の向上を目指しています。

### 北部同盟の支配地域にあるフランスのNGOが設立した女性のためのセンター

ソラヤは毎日2時間、センターでアラビア語の読み書きを教えています。彼女は大きな目を持ち、パキスタンの前首相ベナジール・ブットに似ています。話し方は穏やかですが、確固とした信念を持っています。「女性の教育を禁じるなんて、タリバンは間違っているわ。イスラムの教えでは女性の教育を認めているし、女性は子どもを教育する必要があるのだから、教育を受けるべきなのよ」と強く訴えます。センターでは、読み書き以外のプログラムもあります。ファウジアは、保健と衛生について布に描かれた絵を使って教えていま

す。食物を清潔に保存する方法や、子どもの病気の治療の方法を母親たちに教えるのです。



#### アフガニスタン関連情報サイト

日本ユニセフ協会(日本語)  
<http://www.unicef.or.jp/afganlist.htm>  
ユニセフ(英語)  
<http://www.unicef.org/emerg/updates.htm>

